

アミガサタケ、好きだ！

宮林 八男

2009年5月、群馬県六合村ヘテニス合宿に行った時のこと。温泉街にある神社階段の脇にニョッキリ顔を出しているキノコを発見した(写真1)。実にかわいい！

そして、2010年4月。県内に住む陶芸の友人から「おもしろいキノコが出ているから来ないか」との連絡をいただいたので駆けつけた。ドキドキしながら近づいて見ると、なんと、あの時のキノコだ。これはアミガサタケというキノコ(写真2)。美味しいので是非食べてみるよう勧められた。十数本採って持ち帰る。図鑑をめくると一昨年観たキノコと同じ科。食する時は、十分火を通すこと、と記されている。茹でこぼし、バターで炒めて試食。独特の香りがして歯ざわり抜群。これは美味しい。しまった。もっと探しとけばよかった。大いに反省する。

その後、アミガサタケが生えそうな場所を探し回ったが、見つからずシーズンオフとなる。あの生えている情景、あの味の興奮が覚め切れない…。

何とか形を残し身近に置きたい、と思いついたのが陶アミガサタケ。陶芸教室の先生のご指導を仰ぎ、作品を作ってみた。

1つ目；香焚き器の取っ手(写真3)

2つ目；擬似の単体(写真4)

3つ目；絵柄を描いた万華鏡(写真5)

おかげさまで、いつでも、アミガサタケに会うことができる。とっても、しあわせ…！

もうすぐ、本物を観られる春がやってくる。ああ、待ち遠しい。すっかりアミガサタケが好きになってしまった！



写真3 香焚き器の取っ手



写真4 擬似の単体



写真5 絵柄を描いた万華鏡



写真1(左) トガリアミガサタケ

写真2(中) アミガサタケ